

■ 根拠をもって主張する 教頭 白杵道世

「残暑とは もはや呼べない言わせない」九月十日の山陽新聞に掲載された時事せんりゅう（八月の秀逸）です。岡山市の八月の平均気温は三十・五度で日本一の暑さでした。雨も降らず、猛暑日が続きました。そのような中、生徒のみなさんは、東雲祭の準備にみんな協力して取り組み、「紅炎プロミックス」のテーマのもと、パフォーマンス、展示、ステージ及びパネルで見事な発表を見せてくれました。今年復活した演劇同好会の舞台をはじめ、各部の発表は年々レベルが向上しているように思います。また、生徒会は東雲祭期間中二泊三日の合宿を今年初めて行いました。今年から閉会式を体育館で行うように変更し、盛り上げるため、夜遅くまでアイデアを出し合い、みんなが楽しめるスライドショーを作ってくれました。全員でこぶしを突き上げて叫んだ「天城、最高！」が今の天城高校の勢いを示していると思います。



さて、今年の天城高校の学校案内のページ目には、「新生天城高校がスタートしました」と見出しがついています。もちろんそれは、市立中学校等から

進学した生徒と天城中学校から進学した生徒が初めていっしょに天城高校で学び始めたことを意味しています。もう一つ、新生天城高校のスタートと言えることがあります。それは、平成二十二年度から二十六年までの五年間、文部科学省からスーパーサイエンスハイスクールの「継続新規」の指定を受けたことです。前回指定時の研究開発課題の理数科「課題研究」の充実、地域の理数教育の拠点校、国際社会で活躍できる生徒の育成に加え、統一テーマを設定し全校生徒で様々な方向から課題解決を図るプログラムの開発に取り組み計画です。この倉敷天城NEWSの紙面に見られるように、課題研究の成果を校外で発表したり、海外の姉妹校と交流したり、くらしきスーパーサイエンスセミナーの開催など様々な企画を用意しています。積極的に参加して欲しいと思っています。また、全校生徒で取り組む課題解決学習を研究開発課題に加えたのは、理系、文系に関係なく、「私は○○だと思っています。それは、△△だからです。」というように、「自分の考えを根拠をもって主張する」能力や態度の育成が必要だと考えているからです。

ある雑誌で次のような話を讀んだことがあります。運動靴メーカーのA社とB社の社員二人がそれぞれ市場調査のためにX国に派遣されました。X国が市場として有望なら支店を出し、大々的に商品を出し出すという計画でした。X国は長いこと鎖国をしていて、外来の文化を受け入れず、独特の文化を有し、最近、開国したばかりです。さて、二人の社員が見たものは驚くべき事実でした。X国には履き物を履く習慣が無かったのです。みんな、裸足

で歩いていたのです。これを見たA社の社員はこれはダメだと思いました。彼は早速本社に電報を打ちました。「市場として望みなし」と。ところが、B社の社員は、X国の人々がみんな運動靴を履いたら大変な数になると考えました。それで次のような電報を打ちました。「市場として極めて有望なり」と。

A社の社員は単純すぎたのでしようか。また、B社の社員は長い間履き物を履く習慣が無かった人々が簡単に運動靴を履くようになると思っただけでしょうか。

みなさんはどう考えますか。あなたなら、どういう調査(実験)をして、どういう根拠をもって自分の考えを主張しますか。

■ パーストー校来会 教諭 廣田千里

五月二十九日(土)〜六月六日(日)、米国ミズーリ州カンザスシティのパーストースクールより、生徒六名と教員二名が来倉しました。



週末は三年生徒のホストファミリーとともに過ごし、月曜日から金曜日までは、主に二年R組の生徒とともに授業を受けました。また、特別授業として

■ 平成22年度入試結果

国立大学		公立大学	
帯広畜産	1	茨城県立医療	1
北見工業	1	岐阜薬科	1
北海道教育	1	大阪市立	1
北海道	1	岡山県立	11
群馬	1	尾道	4
横浜国立	1	県立広島	1
滋賀	1	広島市立	1
大阪	2	山口県立	2
大阪教育	1	下関市立	2
神戸	1	高知女子	2
兵庫教育	1	高知工科	9
和歌山	1	北九州	2
鳥取	4	福岡県立	1
島根	5	計	38
岡山	25		
広島	5		
山口	3		
徳島	11		
香川	15		
愛媛	7		
高知	7		
九州	4		
九州工業	1		
佐賀	1		
長崎	1		
宮崎	1		
計	103		

主な私立大学	
青山学院	1
中央	1
早稲田	2
同志社	6
立命館	4
関西	8
近畿	13
関西学院	4
岡山理科	11
川崎医療福祉	22
就実	11
ND清心女子	44
その他	62
計	189

※過年度卒・2部を含む

て団子作りや書道を体験するとともに、放課後には剣道や茶道も体験し、生徒間だけでなく



日本文化を通じての交流もできました。また、パーストー校の先生による数学の講義、火星探査についての講演も聞くことができ、サイエンスの分野においても有意義な姉妹校交流ができたと思います。

パーストー校からの訪問は今年で二回目になりますが、以前にも増して生徒間の絆が深まり、放課後に行われた高校交流会では、英語を通じて積極的にコミュニケーションをとろうとする姿も多く見られま

した。そして、最終日の中高送別会では、涙ながらに挨拶をするパーストー校の生徒が見られ、今回の交流が、両校にとって実り多きものであったことを実感しました。

■ 最優秀賞 「ジャンボタニシの行動学的研究」 三年R組 渡辺裕也

五月十五日(土) 渡辺裕也、中根亮、高山充樹、詫摩友子の四人は、江口先生の指導のもと、山口大学で行われた『生物系三学会中国四国支部山口大会』のポスター発表の部に参加しました。

外来タニシ研究



私たちの『ジャンボタニシの行動学的研究』は最優秀賞に選ばれました。地味で時間のかかる研究でしたが、先生方のご助言がありこのようすばらしい賞をいただくことができました。本当にうれいす。



私たちはその中の『日本動物学会』の動物・細菌分野で発表を行いました。中国・四国の高校生が集いどのグループも真剣に発表していました。どのグループの発表もよく工夫してわたりやすくとめていました。特に大学生の研究はレベルの高いものばかりでこれからの研究に参考になりました。

東雲祭

(体育の部)は六月八日、四十瀬の倉敷陸上競技場で、(文化の部)は九月一、二日、本校で開催されました。昨年に引き続き体育の部と文化の部との分離開催でしたが、どちらの部も中高三年生がそれぞれブロックの優勝をめざし、協力し大いに盛り上がりました。



三年四組 平井達也
僕は二年の時からブロック長をやりたいと思っていたので、楽しく仕事をすることが出来ました。

しかし、自分は他に、団長、有志といろいろなことをしていたのでとても忙しく体調を崩して風邪を引きました。そんなヘタレな僕を支えてくれたのは間違いなくBブロックのみんなです。
東雲祭を振り返ってみると、まず、体育の部。最後の最後までAブロックと接戦で結果は二位。この時、すごく悔しかったけど二位でも嬉しかった。

そして、文化の部。一人で頑張るすぎなパネル長と頭の切れる展示長。泣き虫のステージ長とすぐヘタレる団長。そして、そんな僕たちについて来てくれた三年、二年、一年。その全員が東雲祭で本気になってくれたから総合優勝という最高の終わり方が出来ました。本当にありがとう。今だ

東雲祭 結果

・ステージ	① F	② E	③ D
・展示	① B	② C	③ A
・パネル	① D	② B	③ E
・パフォーマンス	① C	② /	③ A
・体育祭	① A	② E	③ C
・総合の部	① B	② E	③ A

から言える話ですが、自分は優勝したいという気持ちはありましたが、それよりも、Bブロックの一人ひとりにとつて最高の思い出になってくれることが一番嬉しいと思っていました。

自分はこの高校三年の夏が今までの人生の中でいちばん楽しい夏休みでした。忙しくて、たまに萎え期に突入することはありましたが、みんなが支えてくれたおかげで乗り切ることが出来ました。本当に自分は良いクラスメイトや後輩達に恵まれました。ブロック長も団長もみんな仲良く本当に最高の思い出になりました。この思い出は大人になっても忘れません。
Bブロック最高！ 天城最高！



修学旅行

六月二十日～二十三日の四日間、高校二年生は北海道へ修学旅行(ルスツ方面、富良野方面)に行きました。それぞれの場所でも多

くの思い出をつくったようです。



二年一組 片山瑠理

初めての飛行機、初めての北海道はわくわくどきどきだった。一日目、飛行機は思ったより揺れてジェットコースターみたいだった。到着してまず白老ポロトコタンの見学をした。アイヌ民族について知らないことばかりだったので、言葉や文化などいろいろなことが学べたのがよかった。その後、ホテルへ。部屋の中に階段やキッチンがあつてすごく豪華で感動した。夕食はバイキングでたくさん食べた。

二日目の午前中はイチゴ狩りと有珠山観光をした。イチゴ狩りはルスツを選んだ理由の一つなのでたくさん食べた。有珠山では地割れや折れた電柱など噴火後のままの状態が残されていて火山の怖さを知った。午後からは手彫りガラスをした。結構難しかったけど、自分なりにいい感じにできたと思う。夜には花火を見に行った。天気が心配だったが洞爺湖の上に打ち上げられる花火はとてもきれいだった。

三日目は班別自主研修で、小樽では最初にオルゴール堂に入った。かわいいものがいっぱいあつてすごく和んだ。お昼は海鮮丼を食べてその後札幌に行った。時計台を見たりいろいろなお店を回って夜は味噌ラーメンを食べてホテルへ到着。つどいも盛り上が

つておもしろかったし、楽しめた。四日目はクラスで羊ヶ丘と白い恋人パークに行った。羊ヶ丘は風が強くて写真の写りが心配。白い恋人パークは建物も中身もすごくメルヘンでかわいかった。帰りの飛行機とバスは爆睡だった。

一年宿泊研修

四月二十七日～二十八日の二日間、高校一年生は吉備青少年自然の家において宿泊研修が行われました。

一年R組 丸山大照

高校生活が始まって三週間。待ちに待った宿泊研修が始まった。入所式後に行われたポイントオリエンテーション。独自のすべのポイントを回る。パーフェクトルートを編み出し、地図を頼りに好調なスタートを切った。獣道と言わんばかりの狭い道と激しい上下差。正直いうとオリエンテーションなんてなんて舗装をされた山道を歩くだけだろうと舐めてかかっていた。ぬめぬめの滑りそうな沢を歩いたり、激しい石段を越えたり……。三時間は意外と長かったが、パーフェクトで帰ってることができた。結果が楽しみだった。

その日の夜のキャンプファイヤー。みんなのテンションは頂点に達していた。儀式は神聖に、パフォーマンスではクラス一致団結して盛り上がった。

夜はテンションを上げすぎていたせいか、すぐに眠りについた。二日目、午前中にあつたスポーツ大会。昨日のファイヤーストームで声がかれていたが回し手として声を絞り出した。声はガラガラ

ラになったが二位になれたのでよかった。綱引きは一度負けたクラスとの再戦でなんと勝った！全体の順位は悪かったが個人的には満足した。

その後の野外炊事、ご飯を炊くところまではよかったものの、その後のカレー作りで鍋を不意に素手で触り火傷を負った……。それから申し訳なかったがずっと手を冷やしながら見ているしかなかった。カレーの味は上出来だったような気がする。手の痛みであんまり覚えていないが……。結果発表はポイントオリエンテーションがクラスで一位、グループで三位だった。

「高校生」という実感さえまだなかった私たちはこの研修で「中学生」から「高校生」へと成長できた。さらに友達の輪も深く広くなったと思う。今回の研修で学び感じたことを生かしながら高校生活を満喫したいと思う。



部活動の活躍

今年の夏、全国大会に出場した部の生徒の声を紹介します。

陸上競技部

私は、七月二十九日から八月二日に沖縄県で開催されたインターハイの男子走り幅跳に参加

しました。結果は七m三cmで十四位でした。予選は通過し、決勝に出ることができましたが入賞には至りませんでした。応援してくださった方々、指導してくださった先生方、ありがとうございました。



アーチェリー部

杉野 朱名子

高校からアーチェリーを始め、初めての岡山県総体で二位となり女子個人の部岡山県代表として、初沖縄、初インターハイにいつてきました。結果は予選敗退という厳しいものでしたが、全国の代表選手の人たちと同じフィールドに立つて、七十二本射ちぬけたことはとても良い体験になりました。この体験を生かし、最後の一年は自分の目標を達成できるようにがんばりたいです。



この他、水泳部、卓球部、弓道部が中国大会へ出場しました。また、秋には弓道部の藤原楓さんが国体へ出場するなど多くの部が岡山県代表として活躍しています。